

衆議院議員選挙ポスター掲示場の設置数

市町村名	投票区数	選挙人名簿登録者数(H21.3.2)	面積(k㎡)	世帯数	政令による設置数	協議による減少数	掲示場の設置数	備考
東根市	37	37,510	207.17	15,236	244	70	174	協議の上国政選挙も市議選・市長選も同じ
村山市	23	23,117	196.80	8,154	171	8	163	
尾花沢市	36	16,648	372.32	5,747	250	98	152	
大石田町	22	7,225	79.59	2,452	131	6	125	



青木 久子 議員

委員会を引き続き設置

議会活性化特別委員会の報告

議会の活性化は止まることがあってはならない。活性化に向けて真摯な取り組みをし、議会の内なる改革に向けて不断の努力を行っていくことが大切であるということから、平成20年9月に「議会活性化特別委員会」を設置し、調査・研究をしてきました。

議会運営の改善や住民(各種団体)との懇談会等、具体的な活性化方策を協議し可能な部分から実行してきたが、実現までには時間を要するものであり、引き続き委員会を設置し協議していくことを確認したところであります。

(村岡藤弥活性化特別委員会委員長)



三川町の議会報告会視察(4月22日)

選挙ポスターの掲示場の設置と位置の見直しをはかれ

選挙管理委員長：確認し、見直しを検討します

人口の動向を見据えた設置と位置を再確認すべきでは

庭木で見えにくい所もある。確認しているのか。選挙管理委員長 設置後に、書記局において現地の確認を行っているが、ご指摘のような状況であれば、場所の変更など今後改善をはかります。

掲示場どうしが、あまりに近すぎる所もあるが。選挙管理委員長 選挙人の便宜を最優先し、公選法に規定される人口、面積用件を尊重すべきと考えます。通行人を始め広く候補者を知らしめることを目的としています。有権者の便宜をはかるには、多くの掲示場を設置

すべきと考えます。設置の経費と効果を適正に判断しながら現在の設置数を維持していきたい。

近すぎる点については、設置箇所を点検しながらより効果のある設置箇所を検討します。

設置位置については高さを統一すべきではないか。

選挙管理委員長 道路に面し通行人から見やすい場所を優先的に選択しているが、用地や建物の都合でどうしても高くなったり、低くなったりする場合があります。ポスターを貼っていたく皆さんには、大変ご難儀をかける場合もあるが、ご協力をお願いします。



見えにくい掲示板

公職選挙法で数が決められているが、都道府県の選挙管理委員会と協議の上その数を減らすことができる。当町は、国政選挙や県知事、県議選は125箇所、町長選挙39箇所、町議選61箇所。全国的にみると貼る数は町

議選にあわせて同じ数にしている。当町も61箇所にしてはどうか。他市町村では場所の確認は貼る前、貼ってから2度やっているが。選挙管理委員長 委員会の中で検討します。

どうする！

育たない町の農業後継者

議員との懇談会

9月1日に町議会議員全員と町農業委員全員による懇談会が行われた。「町の農業を考える」をテーマに約2時間の話し合いが行われ、最初私から問題点を三点あげました。

一点目は、地域または集落の農地を守るためには農用地利用改善組合を作り、その中で賃借関係、売買関係等を話し合い、農地集積を進められるように組織づくりが必要です。個々で賃借や売買を考えると他市町村に流れやすくなり、さまざまな問題がおきやすくなるからです。

二点目は、近年町内の農地にも遊休農地が目立ってくるようになりました。畑や転作田

が管理されずに雑木や茅野化しています。早く手をかけないと借りる人もいなくなるし、近隣の農地にも迷惑がかります。

三点目は、農業委員会の事務局体制の強化です。6月の国会で農地法の一部改正により企業も農地が借りられるようになり、事務局の仕事も多くなると思われます。事務局が留守にならないように一人でも多い事務員が必要だと農業委員会全員一致で賛同し、町長、町議会議長にお願いを文書にて要請しています。

以上三点を問題提起して話し合いました。「組織をつくってこそ」に心えられる後継者

がない。「各地域、集落に数少ない人数しか後継者がいない。町内にも二年に一人しか新規就農者が出てこない。」農業をやりたいと思わせるには、他産業と同等くらいの手当てを出さないと、新規就農者は育ちません。農家の収入が増えなければ後継者も育ちません。

遊休農地には、条件の悪い所がどうしてもやすい。金をかけて条件整備しても作付けしてくれない人がいるのだらうか。農業振興地域は転用が難しい。

企業参入については、組織を作っていれば企業も入ってこれないのでは。

農業委員会として、町長にも農業政策を提言していくべきではないだろうか。

時間がたりないくらい意見が出され、有意義な懇談会でした。町議の定数削減、農業委員数の削減等で話し合いが中断されていますが、これからは年一回程度の会合を進め、さらに町の農業を考えて生きたいと思えます。

(農業委員会 会長 芳賀芳一)



真剣に話し合われた懇談会(9月1日)